

「高知の授業の未来を創る推進プロジェクトにおける『算数科・数学科 授業づくり講座』では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた、授業づくりの在り方を学ぶため、拠点校を会場に教材研究会と授業研究会をセットして実施しています。今回は、春野東小学校を会場とする第1回【教材研究会】(9月10日実施)での学びの様子を紹介します。

「授業づくり講座」の日程及び申込みは、HPでもチェックできます！
その他のレポートも多数掲載！



第4学年「倍の見方をつなげよう」くらべ方と割合

提案者 池畠 奈菜 教諭, 丸本 美佐 教諭 (高知市立春野東小学校)

学びの系統
を捉える

教材研究会では、はじめに、研究主任の廣瀬教諭から**学習指導要領**で示された内容を基に**系統的な学び**を意識した校内でのこれまでの取組や、本提案に向けた授業づくりの視点について説明がありました。

引き続き、各学年から**割合の指導の充実**に向けて、系統を踏まえたうえで**大切にしたい見方・考え方の**視点が述べられました。

その後、提案学年の4年回からは、**子供の見方・考え方を**つなぐ単元づくりに向けて、1学期の実践の授業省察と共に、本単元の提案が行われました。

第3学年 倍の計算 (2学期計画案)

本時のねらい
何倍かを求める場合は、幾つ分かを求める場合(包含除)であるとする。

本単元と関連する直近の**第3学年「倍の計算」**について具体的な場面を通して考えられるよう、第3学年担任近森教諭から授業計画案が示されました。

第4学年 倍の意味 (1学期実践)

本時のねらい
「倍」の意味を「基準量を1としたときに、幾つに当たるか」という割合の見方で捉え直す。

本単元につながる1学期に実践した**第4学年「倍の意味」**について授業映像を用いた**省察**が行われました。

単元を描く

本単元では、基準量が異なるある二つの数量と別の二つの数量の関係を比べる学習をします。

本単元で割合での比べ方を考察するためには、基準量を1とみて根拠を明らかにして説明する姿を子供から引き出したいと考えます。

そこで、関連する単元における①の学習では、基準量の1を意識して数量の関係を把握する力を育みたいと考え、実践を行いました。(上述の1学期実践「倍の意味」参照)

また、②の単元では、数の範囲を小数にまで広げ、これまでに身に付けた見方・考え方を働かせて考察することができるようにしたいと考え、単元をつくりました。見方・考え方を意識して、単元をつなぐことで、見方・考え方が更に伸ばされ、豊かになることを期待しています。

学年回から、学習指導案に示された単元をつなぐ視点が説明されました。

学習指導案については、更なるブラッシュアップを図り、授業研究会で配付します。ぜひ、ご参加ください。



見方・考え方で単元をつなぐ

① 単元「倍の計算」の学習内容
② 本単元「倍の意味」の学習内容
③ 単元「くらべ方と割合」の学習内容

① 倍の意味を割合で捉え直すうえで、**基準量「1」を意識して数量の関係を把握する見方を育てておく。**

② 本単元
ある二つの数量と別の二つの数量の関係を比べるうえで、**基準量を1とみて考察する姿を引き出したい!**

③ これまでの見方・考え方を働かせ、「小数」も指めて倍の意味を捉え直す。

第4学年 くらべ方と割合《本時》

本時のねらい
比べるために必要な二つの数量を割合でみてよいかを判断し、割合で比べることができる。

大切にしたい視点

- 比べる必然性を生む場面を設定する。
- 前提として比例関係にあることをおさえる。
- 差では比べられないことから問いを焦点化する。
- 比べ方について、数量の関係を着目して、言葉や図、式を用いて根拠を明らかにして筋道立てて考えることを大切にす。
- 解決の結果を振り返り、割合の意味を言語化する。
- もとにする大きさが違うときには、倍を使って比べることができることを捉えるようにする。
- 新たな場面において、比べるために必要な二つの数量を割合でみてよいかを判断し、割合で比べることができるようにする。

⇒そのための手立てを考える

本時を描く

【最終板書計画】

論点整理
グループ協議



協議では、本時の課題に至るまでの「問い」の引き出し方について考えました。

グループ協議では、

- ・ もとの長さが違うという意見は子供から出てくるだろう。既習の倍の見方で考えていくには、Aの伸び方から関係を考えた後でBの伸び方を考えて比較することも考えられるのではないか。
- ・ 差でみる子やそうではないと言う子がいるだろう。そうではないという子は「Aは2倍になっているけれど、Bは3倍になっているからBの方が伸びる」と言うと思う。けれども、差でみている子は、その考えを聞いただけではすぐには納得できない。そこで、困っている子供に納得できるように説明することが求められる。子供自身が説明できるための布石が必要になると思う。
- ・ 数値の置き換えをすることで、もとの長さが揃う。長さを変えて考えてみたいと数値を置き換えて考えるアイデアを子供から引き出した。

などの意見が出されました。

講師による
指導・助言

講師 高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官
島根県立大学教授
齊藤 一弥 先生



一歩アップして(能力成長を見せる)

今回の改訂では、第4学年に「簡単な場合についての割合」が新しく位置付けられ、下学年からの学習の積み上げが一層重視されています。全体指導では、改訂に携わられた齊藤先生から「割合の考え」を軸に、いかに能力を育むかについて、系統性を見通した各学年での指導のポイントや、第4学年での学びの位置付けについて、ご指導いただきました。

【参加者の感想】

- ・ 一つの単元に取り組み際に、6年間の大きな流れの中でどのようなことができるようになるかを見つめることが大切だと知った。1年生からの積み重ねで能力を育てていくことを、どの単元でも考えていきたい。
- ・ 5、6年の学習につながるために、4年の学習が重要であることが分かった。
- ・ 割合の分野での系統性を把握することができた。また、1とみる考え方が、さまざまな所で生かされることが分かった。低学年から1とみる見方を育てるよう丁寧に指導していきたい。